

P2 - P3

## 第30回通常総会開催

16P

連載

“還暦おやじ”の新人農業者手帳

ゆうき ひろぶみ  
平成27年度新規就農者 **遊佐宏文さん**

2018

5月号

Vol.350

第

30

回

通

常

総

会

開

催



当日有効総数	558名
出席者	191名
出席者	16名
出席者	11名
出席者	251名
出席者	469名

4月11日、石狩市花川北コミュニティセンターで第30回通常総会を開催しました。

開会にあたり中村武史代表理事組合長が『平成29年の石狩市農業は融雪が早かった事により農作業が順調に進みましたが、6月は低温、7月は真夏のような暑さが続き、秋以降は雨が多しなど肥培管理には大変苦労した年でありましたが、米穀では低タンパク米の出荷比率が約55%で品質も良く、石狩管内「ゆめびりかコンテスト」で名誉ある金



▲組合長挨拶

賞を受賞いたしました。青果物は平年並みの作柄となりましたが、価格面で品目により差が大きく、良好であった果菜類に対して根菜類の販売価格は低迷が続き、総体では12億円の取扱実績となりました。地物市場「とれのさと」ではコイン精米機を設置して石狩産米の消費拡大に努めるとともに、フェイスブック等SNSを活用して認知度向上に努めてきましたが、繁忙期の天候不順や野菜価格の低迷、競合店舗の開店などにより計画には届きません

した。一方、経済事業では主要品目の肥料及び農薬の単価を引き下げることにより、生産者の経営コスト低減化に努めました。また、平成30年度は当農協にとりましても本年度は「第6期地域農業振興計画・第6次中期経営計画」のスタートの年であります。基本目標とする「農業所得増大と新規担い手倍増による持続可能な魅力ある地域農業の実現」を目指し、各部門で取り組みを進めて参ります。そして当農協の経営理念である「発展は人なり」に基

▼池端英昭道議会議員



▼田岡克介石狩市長



▲ホクレン札幌支所  
千場啓史支所長



▲内海英徳道議会議員

づき、多様なニーズと環境の変化に柔軟に対応できるJAを指すと共に、人事管理制度を再構築し自己改革の実践と人材育成を図り、活力ある職場づくりを取り進めて参ります。農業、農協を取り巻く環境は今後も厳しさを増すことが予想されますが、組合員の営農経済を支え負担に応えていけるよう役職員力を合わせて健全経営に取り組んで参ります。』と挨拶しました。

続いて、来賓を代表して田岡克介石狩市長、内海英徳道議会議員、池端英昭道議会議員、ホクレン札幌支所千場啓史支所長より祝辞を頂き、議長に美登位地区の後藤文康さんを選出して議事に入りました。

議事では、平成29年度事業報告、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案および注記表の承認、平成30年度事業計画、第6期地域農業振興計画及び第6次中期経営計画の策定など7議案を上程し、全件賛成多数で承認されました。

また、JA北海道大会決議事項の着実な実践に関する特別決議(案)として『JAグループ北海道は、政府が定めた平成31年5月を期限とする「農協改革推進集中期間」に対し、改革は自



▲氏家常務



▲議長に選出された後藤文康さん



▲特別決議(案)を朗唱する  
青年部山内克彦部長

ら行うものとして、「JAグループ北海道改革プラン」を策定するとともに、平成27年11月の「第28回JA北海道大会」において農業所得増大、新規担い手の増加、サポーター550万人づくりなどを決議し、その実践を通じた自己改革を進めている。平成30年度は、大会決議事項の実践3年目の年であり、政府が定めた期限に向けた最終年度であることから、更なる自己改革への強い意志を共有し、組合員・JA・連合会・中央会がそれぞれの役割を再認識した中で、「力強い農業」と「豊かな魅力ある農村」の実現を目指し、JAグループ北海道が一丸となって着実に実践する。』と当JA青年部山内克彦部長が朗唱し、出席者満場の拍手で決議しました。



▲閉会後の抽選会



▲加納洋明市議会副議長による万歳三唱

終わりに石狩市議会の加納洋明副議長より今年度の当JAの更なる発展を祈念して万歳三唱が行われ盛会のうちに終了しました。

# J A いしかり女性部

## 第30回通常総会開催



3月15日、本店大会議室においてJA女性部の第30回通常総会が部員26名出席のもと開催されました。

総会では女性部綱領朗唱に続き、川崎寿子部長の挨拶の後、来賓の当JA中村武史代表理事組合長、当JA青年部山内克彦部長、石狩農業改良普及センター石狩北部支所増子優子支所長よりそれぞれ祝辞をいただきました。議長に小池千里さん(高岡地区)が選任され、平成29年度事業報告、収支決算報告、平成30年度事業計画(案)、収支予算(案)等提出議案は全て承認されました。

尚、任期満了に伴う役員改選で決定した役員は次の通りです。(敬称略)

平成30年度 JAいしかり女性部役員	
部長	川崎 寿子 (北生振地区)
副部長	伊藤 良子 (高岡地区)
副部長	後藤ゆかり (美登位地区)
会計	新居久美子 (美登位地区)
理事	似鳥 初枝 (花畔地区)
理事	蓮田千佳子 (北生振地区)
代表監事	杉中真由美 (花畔地区)
監事	小笠原光子 (高岡地区)



設立30周年記念式典開催

石狩市農業協同組合女性部設立30周年記念式典



3月15日の通常総会終了後、当JA女性部設立30周年記念式典が来賓、歴代部長、現役女性部部員の総勢32名が出席のもと開催されました。川崎寿子部長の挨拶により式典が開会され、来賓の当JA中村武史代表理事組合長、当JA青年部山内克彦部長、石狩農業改良普及センター石狩北部支所増子優子支所長よりそれぞれ祝辞を頂きました。また、女性部に多大な貢献を頂いている歴代部長3名の方に感謝状の授与が行われました。



▲後藤桂子元部長



▲謝辞を述べる後藤桂子元部長



▲伊藤佐智子前部長



▲杉中澄子元部長

感謝状を授与された方を代表して第4代女性部部长の後藤桂子さんから「昔を懐かしみながら苦勞話をする中で改めて部員皆様への感謝の気持ちが出てきました。今後の更なる発展に期待したい。」と激励の言葉を頂きました。結びに石狩地区女性協参与の伊藤佐智子さんより「女性の力を大いに發揮して進んでほしい。」とお言葉を頂き、盛会のうちに終了しました。



## 各生産者組織・部会の通常総会が開催される！！

## JAいしかり青年部

3月16日、茨戸ガーデンで当JA青年部第31回通常総会が部員30名出席のもと開催されました。

山内克彦部長の開会挨拶に続き、当JA中村武史代表理事組合長、石青協假谷智博会長、女性部川崎寿子部長、石狩農業改良普及センター増子優子支所長より祝辞を頂きました。議長に伊藤強さん(高岡地区)が選任され、平成29年度事業報告、収支決算報告、平成30年度事業計画案、予算案等提出議案は全て承認されました。

また、今総会で青年部を勇退する高岡地区の間島経氏さん、北生振地区の須藤聖治さん、藤山和宏さん、花畔・生振地区の林太一さんへ感謝状と記念品の授与が行われました。

総会後の懇親会では、各々農業に対する熱い思いを語り合い交流を深めていきました。新役員体制は次の通りです。



## 平成30年度 JAいしかり青年部役員

部 長	山内 克彦	(美登位地区)
副 部 長	藤岡 裕寿	(高岡地区)
副 部 長	熊倉 聡	(北生振地区)
代表監事	小野寺啓介	(北生振地区)
監 事	森田 純也	(高岡地区)
参 与	増田 崇紘	(高岡地区・石狩地区農協青年部連絡協議会副会長)
顧 問	小林 卓也	(花畔・生振地区)



## そ菜園芸振興会

3月27日、そ菜園芸振興会の平成29年度通常総会が開催されました。

成田和彦会長の開会挨拶に続き、平成29年度の事業報告、収支決算報告、平成30年度の事業計画、収支予算書(案)等の議案が満場一致で原案通り承認されました。

総会終了後には、カルビーポテト株式会社道央支所の大橋支所長と千歳工場馬鈴薯担当の梅田氏を講師に招き、種芋の管理方法や植え付け、施肥設計の方法についての説明を頂きました。また、北海道施肥ガイドを参考にして出席者と共に土壌分析に基づいた施肥設計を実践しました。今年度もたくさんの方の加工馬鈴薯を生産して欲しいとのお話や、圃場へ足を運んだ中で栽培ポイントのアドバイスを直接頂けることで今後が大変期待されます。



▲成田和彦会長

## ブロッコリー部会

3月22日、ブロッコリー部会の平成29年度通常総会が開催されました。成田和彦会長の開会挨拶に続いて議事が進められました。会員から部会活動に対する様々な意見や要望が出され議案は全て承認されました。

また、総会終了後には講習会を行い、石狩農業改良普及センターの山口係長と斉藤普及員より石狩の気候に合うブロッコリーの品種選定の提案を、ホクレン札幌支所生産資材課の水田氏から根こぶ病土壌菌密度調査とブロッコリーを加害する「コナガ」の生態や効果的な防除薬剤についての説明を頂きました。出席した会員から多くの質問があり長時間でしたが集中して熱心に講習を受けていました。今年の4年連続販売金額3億円達成に向け更なる栽培技術向上を図り意欲が湧く機会となりました。



## グリーンサポーター利用者協議会



▲松本尚俊会長

3月19日、グリーンサポーター利用者協議会通常総会が行われました。

松本尚俊会長の開会挨拶に続き、議長に毛利勝正さん(高岡地区)が選出され、審議のもと提出議案は全て承認されました。

総会終了後には利用者全体会議が行われサポーターの時給改定や取り決め事項について協議を行いました。

また、全体会議終了後にはホクレンの清水課長代理と家納調査役による農作業事故についてのお話と「パートさん採用受け入れガイドブック」に基づいた講習会、(株)北海道アルバイト情報社の三浦マネージャーによるパート雇用のノウハウについての講習会が行われました。出席者はこれから迎える農業パートの指導や受け入れについて熱心に耳を傾けていました。

## 資産運用部会



3月22日、花畔支店会議室で第30回資産運用部会通常総会が部会員20名出席のもと開催されました。

加藤重光理事長の開会挨拶に続き、来賓を代表してJA全農生産資材課渡辺敦子調査役よりご祝辞を頂きました。議長に内海健司さん(花畔地区)を選出し、平成29年度事業報告及び収支決算報告、平成30年度事業計画(案)及び収支予算(案)等、議案は全て承認されました。

総会前には、JA全農の渡辺氏を講師に迎えて「相続税に関する講習会」を行い、年度別の情勢報告や二年後の民法改正により相続税はどう変わるのか等を学びました。

総会終了後に行われた懇親会では、部会員同士が懇親を深めながら有意義なひとときを過ごすことが出来ました。

## 米 麦 振 興 会



▲大嶋浩司会長

3月27日、茨戸ガーデンで米麦振興会通常総会が会員33名出席のもと開催されました。大嶋浩司会長の開会挨拶に続いて、来賓を代表して当JA中村武史代表理事組合長が祝辞を述べた後、議長に吉田茂樹さん(生振地区)が選任され、平成29年度事業報告、収支決算報告、平成30年度事業報告、収支予算報告等、議案は全て承認されました。今年度は役員改選があり新会長には稲作部会部会長の竹永啓一さん(高岡地区)が選出されました。総会に引き続き懇親会が開催され盛況の内に終了しました。

### 米麦振興会 新役員

会 長	竹永 啓一	(高岡地区)
副会長	伊藤 強	(高岡地区)
副会長	藤山 和宏	(北生振地区)
会 計	後藤 雅彦	(美登位地区)
監 事	池端 規明	(花畔地区)
監 事	青木 豊	(五の沢地区)

また、終了後に講習会を行い、ホクレン札幌支所米麦農産課の加藤課長と五十嵐考査役から「米麦の情勢」のお話を頂いた後、石狩農業改良普及センターの山口係長と佐々木普及員から「なまぐさ黒穂病」・「水稻稚苗移植栽培と飼料米栽培」についてそれぞれ経過及び結果報告がありました。尚、新役員は次の通りです。



## とれのさとスプリングセール開催



3月31日、4月1日、地物市場とれのさとでスプリングセールを開催しました。これは夏期営業開始に伴うセールで、オープン前から多くのお客様が長蛇の列を作り、開店後はお目当ての売り場に先を争いながら進む様子が見られました。初日は越冬キャベツ、二日目は大根を目玉商品として販売し飛ぶように売れていきました。あわせて「石狩地区ゆめぴりかコンテスト金賞受賞」受賞産地の米の試食販売を行い、石狩産米の美味しさをPRしました。また週末限定炊き込みご飯の販売も開始し、加工グループによる手作り惣菜の販売等も心待ちにしていたお客様に大変好評でした。

少しお客様の流れが落ちつく午後からの集客イベントとして馬鈴薯詰め放題も行い、来客数は2日間約2千人となり大盛況のオープンイベントとなりました。





## カルビーポテト 千歳工場へ視察

<http://www.calbee.co.jp/factory/blog/chitose/>

こちらのQRコードからも  
ご覧頂けます。



3月23日、カルビーポテト向けの加工馬鈴薯を作付する生産者8名でカルビーポテトの千歳工場へ視察に行きました。

工場見学の前に、カルビーポテト株式会社 社道央支所大橋支所長より「今年度も沢山のポテトチップスを作りたいので、みなさんのご協力をよろしく願います。」と挨拶があり、馬鈴薯担当の梅田氏より、「会社説明や歴史についての説明がありました。工場見学では、実際に原料の馬鈴薯からポテトチップスがどのようにして製造・加工しているのかを生で見学することができました。参加者からは、「自分たちが一生懸命作った馬鈴薯がこういう形で使われているのがわかって良かった。今後の生産へのモチベーションに繋がる。」との感想が聞け、今回の工場見学を通して品質の良い馬鈴薯生産に向けてより意欲が湧きました。

また、カルビーポテト千歳工場のホームページには当日の見学の様子が掲載してありますので、左記のURLからご覧ください。

## 長芋栽培技術講習会を開催



3月28日、生振ふれあい研修センターで長芋部会による長芋栽培技術講習会が会員12名参加のもと開催されました。

宮北義雄会長の開会挨拶に続き、講師にはカネコ種苗株式会社社の深町課長と石狩農業改良普及センターの斉藤普及員を招き、長芋栽培における注意点と土壌診断についての説明をいただきました。

出席した会員の質問に対して一つ一つ丁寧に答えていただき、大変有意義な講習会となりました。今年度も現地検討会を予定しており、更なる栽培技術向上が期待されます。



# 石狩市産米の美味しさを伝えたい!!

## 金賞受賞「ゆめぴりか」を学校給食や子ども食堂に提供

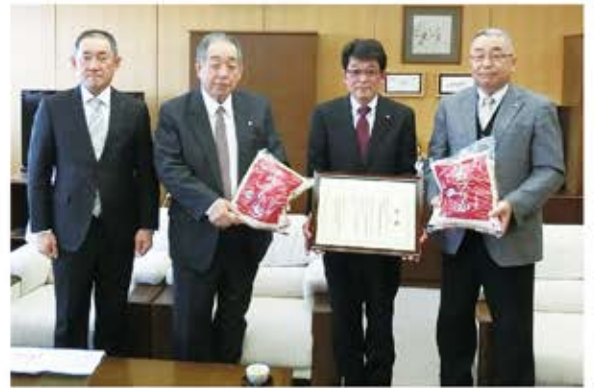


4月5日、当JA中村武史代表理事組合長とゆめぴりか生産者協議会の森本勝美会長が石狩市の田岡克介市長を表敬訪問し、「北海道ゆめぴりかコンテスト2017」で石狩管内代表として金賞を受賞したことを報告しました。

当JAは、子どもたちに石狩市産米の味を知ってもらいたいとの思いから「道民と食と農でつながるサポーター550万人づくり」の一環として、市内学校給食の米飯として「ゆめぴりか」540キロを提供しました。



また、昨年から食材の提供で子ども食堂の取り組みを応援していますが、地域の子育て支援における市民協働の「子どもの居場所づくり推進事業」の取り組みを行っている市内5団体の事業所に対し、直売所出荷者協議会生産者のご協力のもと農産物の継続支援を決め、同日に地元農産物の贈呈式を地物市場とれのさで行いました。今回は当JAから「ゆめぴりか」300キロを中村武史代表理事組合長より、石狩産野菜を直売所出荷者協議会前田まさ子会長よりそれぞれ手渡し、今後も石狩産野菜などを随時提供していく方針です。



▲(左から)中村武史代表理事組合長、田岡克介市長、森本勝美会長、鎌田英暢教育長



▲前田まさ子会長より石狩トーク☆クラブの納谷眞智子代表に贈呈



▲贈呈された各団体代表者の皆さん

## 農機・部品・自動車展示会

3月22、23日の両日、ベジタブルファクトリーの倉庫及び敷地でホクレン・部品メーカーが多数参加の中、農機部品・小農具・作業衣料の販売と自動車展示会を行いました。小農具メーカーの担当者も多く充実したラインナップで商品説明をしていたり、新車等の商談でもメーカーはもちろん組合員も真剣に交渉をする姿が見られました。また、同日に生産者会議を開催するなど、多くの方にご来場頂き楽しそうに商品を見て沢山の品物をお買い求め頂きました。毎年美味しいと評判の昼食サービスの種類にも舌鼓を打ち、冷えた身体をあたたかいソバとうどんで満たし大変和やかな展示会となりました。



## 八幡スタンド、花畔セルフスタンド

春

## BOXティッシュプレゼントキャンペーン

3月22、23日に八幡スタンドで、3月24、25日に花畔スタンドで春のBOXティッシュプレゼントキャンペーンを行いました。総勢14名のスタッフが元気にテキパキと動いて給油待ちの車両が列を作ってもスムーズに給油ラインに誘導し、たくさんの方にご利用頂きました。雪解けも進む中で天気も良く洗車日和であったためか、洗車場は早朝から閉店時間まで待機車両が列を作って賑わっていました。また、スタッフの声かけによりアロック会員の新規加入も多くなり、組合員皆様のご協力と関係者の準備、連携により両スタンドともにキャンペーン目標を達成しました。運転機会が増えるこれらのシーズンも非常に頼もしく最強のスタッフ達がお待ちしていますので、皆様どうぞ御来店ください。



# 市内の中学生が石狩市の野菜に注目!!



2月27日～3月11日、市民図書館にて中学校かべ新聞展示会が行われ、市内中学3年生による力作が並ぶ中、花川北中学校3年1組が石狩市の野菜について取り上げてくれました。

市内の中学生が農作物に興味を持ってくれたのは非常に喜ばしいことであり、きちんと調べた上で市内のスーパーを回ったり、当JAにも取材に訪れて情報収集し、地元野菜が全国に誇れるものだと感じてくれるなど大変感心する内容でした。

年度が変わっているため現在は高校生になっている彼らですが、将来の石狩市を背負って立つ子ども達が今後も石狩ブランド野菜に興味を持ち続け、更にその輪が広がることを期待します。



## 意外と知らない 地元野菜の話

<p>石狩市はさやえんどうの生産量全道一位であるという話を聞き、市内の大手スーパー全店を調査した。結果、丸の中三店が石狩産、残りの店は北海道産と表示していた。だが、石狩産であるにも関わらず北海道産と表示している店もあった。表示の仕方に疑問を感じたため、JAいし</p>	<p>かりを訪問し、佐藤さんからお話を伺った。石狩産さやえんどうは石川県をメインに東京、大阪にも出荷されているという。市内の三分の一の量を生産していた方が少なくなるとは、全国で品切れが起きたほど、生産量は多いとのことだ。ただし、法律上では北海道産までしか</p>	<p>表示義務がなく、「石狩産」の表示はなかながしもらえないとのことをお話した。過去には石狩市が、大根の生産量やカボチャの品質で全国一位になったことも初めて知った。話を伺えば何うほと、全国に誇れる地元の野菜を、アピールする方法が少ないことが課題であると感じた。</p>
--	---	--



## JA共済 PRボードコンテスト★本支店共にW入選!!

JA共済連北海道札幌支所の企画として後志・石狩地区のJAを対象に「JA共済スマサポ・PRボードコンテスト」が開催されました。当JAは藤嶋職員が本店分を、花畔支店の岸野職員、永岡職員、佐藤LAが支店分を担当し、参加するからには！！と最優秀賞を目指して、それぞれ業務の合間を縫って制作にあたりました。

審査の結果、石狩地区37支店、後志地区11支店の計48支店の中から、なんと2作品共に佳作に選ばれました！制作にあたった職員は、「入選できて嬉しい反面、トップを目指していただけにとっても悔しいです。他のJAのレベルの高さを知ることができたので、次回このようなコンテストがあった際には今度こそ最優秀賞を獲ります！！」と既に次回への意気込みを聞かせてくれました。



両作品とも「自動車共済」をテーマにしていますが、現在JA共済では「お見積りキャンペーン」を行っています。お見積りをしていただだけで、シャープの空気清浄機やバルミューダのトースターが抽選で当たるチャンスですので、現在、他社の自動車保険に加入されているお車や、まだ保険にご加入されていないお車がありましたら、お気軽に共済課までご相談ください。

制作期間わずか一日という猛スピードで素晴らしい完成度の藤嶋職員作本店ボード



永岡職員作の似顔絵イラストをメインにわかりやすさとインパクト重視で作り上げた花畔支店組

# 新入職員紹介

金融共済部 金融課 金融係  
ささき りこ  
**佐々木 莉子**

空知郡南幌町出身  
北星学園大学卒業  
22歳

平成30年4月1日入組

## 趣味

写真を撮ること  
ライブ鑑賞

明るさと笑顔をもっと、少しでもはやく皆様から信頼されるような職員になれるよう努力していきたいと思います。これからよろしくお願い致します。

## 特技

タイピング

※パソコンなどキーボードを見ずに入力すること

## 好きな言葉

ななころひやおき

**七転八起**

意味：何回失敗しても、それに負けず、また立ち上がって努力すること。

七転八起

## 好きな野菜

とうもろこし  
トマト

## 上司の 森本係長より★

チャーミングな笑顔で、みなさまに愛される職員になりますよ！  
ぜひぜひ窓口に会いに来てくださいね♪

入組式にて（中央：瀬能職員と佐々木職員）

## 今月の表紙紹介

### ～撮影オフショット～

今月の表紙は人参部会の横山忠昭部会長です。平成29年産人参は全国的な栽培面積の増加もあり市場価格が低迷し非常に厳しい年となったため今年度に期待しています。



▲いつも爽やかな笑顔の忠昭さん。大晟君も畑でトラクターに乗ってお手伝いしてくれるそうで「後継いてくれたらイナ〜♡」と。



▲いつも仲良しな奥様のおりえさんとは自動車学校で友人を介して出会い、今年の1月で結婚して丸20年。仕事の合間をみて家族で映画鑑賞に行くそう。



◀取材が大好きな大晟(たいせい)君。最近お気に入りのグリコポーズで。

大晟君よりパパへ「たばこ吸い過ぎ注意!!」  
ママへ「夜更かしやゲームのやり過ぎと怒らないで!!」



▲20歳になったお兄ちゃんは岩見沢、高2のお姉ちゃんは札幌の寮住まいなので、今は大晟くんがムードメーカー。

## 青果課よりお知らせ

夏期対応として、4月1日より青果課がベジタブルファクトリーへ事務所を移転しましたのでお知らせします。

### ベジタブルファクトリー直通

TEL : 0133-66-3333

FAX : 0133-66-3999

## おくやみ

石狩地区 北生振1班  
伊藤 ステさん  
享年90歳  
平成30年4月7日逝去

生振地区 生振第1  
吉田 重男さん  
享年95歳  
平成30年4月13日逝去

謹んでお悔やみ申し上げます。

選 暦 お や じ の  
新 人 農 業 者 手 帳

平成27年度新規就農者

遊佐 宏文



一、カラス&キツネとの共存共栄

農業者となり、これまで意識したことのないモノ達との関わりが多くなりました。それはカラス、キツネやネズミをはじめ蝶など各種昆虫とその幼虫等の農家の大敵です。営農一年目には、ミニトマトが枝ごと持って行かれたり、カラスとキツネが競い合うように収穫直前のトウモロコシを食い散らかしたりと散々悔しい思いをしました。

その一方で動物たちに気付かされたこともありました。例えば、近くにキジがいて毎年「ケーン、ケーン」という鳴き声を聞かせてくれますが、ハウスを建設する直前には私の畑の真ん中を悠々といきまわっていました。冬間にキツネが畑の真ん中を横断し足跡を残していました。実はこうした「けもの道」を私のハウスが遮断して彼らの環境を壊したのです。

動物は彼らの都合で生きています。ネズミなどはキツネやイタチの入ってこない安全な場所に潜り込んで子を産んだり、冬を越したりと、私の都合とは相いれない事象が発生します。ネズミの寿命は三年のようですが、年次で特徴が異なります。一年ネズミはカゴで捕まえても怖れる様子もなく餌を食べ続けています。二年ネズミになりようやくストレスを感じ始める動作をします。三年ネズミともなると私がカゴに近づくと



「チュー・ギイ・チュー」という恐ろしい鳴き声を発し、つついた小枝に噛みついたり私を睨みつけて威嚇したりと相当の貴録です。

捕らえたネズミたちは、私の天敵カラスとキツネの餌になります。トラクター耕起時に畑の虫を食べに集まってくるカラスとネズミを餌としているキツネへの返礼として「共存共栄」という妥協をするしかありません。ただし、地域によってはエゾ鹿やアライグマなどのほかにヒグマの被害に遭われている方々のことも聞いています。是非、動物保護の陰で農業者達が随分苦しんでいることを知っていただき、適正に駆除されることを願う次第です。



▲迫力の三年ネズミ



▲モンシロチョウとカナブン



▲コオロギ

二、防虫ネットの活用と  
思われ効果

昨年ハウスに防虫ネットを設置しました。一年目に蝶の群れが中に入り生まれた本来は緑色のはずの青虫が、トマトの赤い色素リコピンに染まって多くの青虫ならぬ「赤虫」が発生したためです。

当初は風通しが悪く室内温度が下がらないのではとの懸念もありましたが、特に問題無しでした。今では、虫などが入らなくなったのはもちろん夜間も開けっ放ししておけるのでカビの発生も無くなり、更に嬉しいこともひとつ。冬場に防虫ネットとして活躍してくれたのです。降雪に邪魔されずにハウスに入りでき、光合成のための除雪の際もビニールの損傷を気にせず作業できたのです。

実は降雪前にネットを撤去する予定でしたが、他の作業で忙しく撤去できずに冬を迎えました。それを妻がこう言いました。  
「あんまり頑張らないで、たまに手を抜いたほうがいい結果ができるんじゃないのオ。」  
悔しいけれどその通りのようです。(了)

(平成三十年四月十日記)